
朝霞和光資源循環組合
ごみ広域処理施設整備・運営事業
審査講評

令和6年11月14日

朝霞和光資源循環組合ごみ広域処理施設
整備運営事業者選定委員会

目 次

第1章 事業の概要.....	1
第2章 審査方法等.....	3
第3章 最優秀提案選定結果.....	9
第4章 総評.....	13

第1章 事業の概要

1 事業名称

朝霞和光資源循環組合ごみ広域処理施設整備・運営事業

2 公共施設等の概要

(1) 名称

朝霞和光資源循環組合ごみ広域処理施設

(2) 建設予定地

ア 所在地 埼玉県和光市新倉 8-17-25

イ 敷地面積 約 24,900 m²

(3) 施設の概要

ア 建設対象施設（ごみ広域処理施設）

(ア) エネルギー回収型廃棄物処理施設（ごみ焼却施設）

処理方式	ストーカ式
処理能力	175t/日 (87.5t/24h×2 炉)
処理対象物	燃やすごみ、破碎残渣、処理残渣

(イ) マテリアルリサイクル推進施設（不燃・粗大ごみ処理施設）

処理方式	破碎・選別・保管
処理能力	17t/日
処理対象物	燃やせないごみ・有害ごみ、粗大ごみ、不法投棄物、他施設で混入していた不燃ごみ等返品分等

イ 解体対象施設（和光市旧ごみ処理場）

敷地面積	3,636 m ²
構造	S 造、一部 RC 造（地上 2 階）
処理能力	60t/日（円形じん芥焼却炉）4 基
基礎	杭基礎
その他施設	工場棟、事務所等、和光市リサイクル展示場、ストックヤード、煙突基礎部、除じん再燃室基礎、沈殿池基礎、重油タンク基礎、基礎杭、外構設備、その他設備（浄化槽、貯水槽、洗車場、計量器、門・門扉、囲障）、建築電気設備等

3 事業期間

事業期間等は、以下のとおりである。

- ・事業期間：事業契約締結日（令和 7 年 2 月予定）から令和 32 年 3 月 31 日まで
- ・設計・建設期間：事業契約締結日から令和 12 年 3 月 31 日まで
- ・運営期間：令和 12 年 4 月 1 日から令和 32 年 3 月 31 日まで
（運営準備期間：事業契約締結日から令和 12 年 3 月 31 日まで）

4 事業方式

本事業は、本施設の設計・建設及び運営に係る業務を事業者が一括して行う DBO（Design：設計、

Build：建設、Operate：運営）方式により実施する。

組合は本施設の設計・建設及び運営に係る資金を調達し、本施設を所有する。

事業者は、組合の所有となる本施設の設計・建設業務、運営業務に係る本事業を一括して行うものとする。

5 事業範囲

事業者が実施する主な業務は、次のとおりとする。

ア 設計・建設業務

イ 運営業務

第2章 審査方法等

1 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10の2に規定する総合評価一般競争入札方式により実施した。

2 落札者決定までの経過

落札者決定の経過は、以下のとおりである。

表1 落札者決定までの経過

日 時	内 容
令和6年 4月 8日 (月)	再公告 入札説明書等（入札説明書、要求水準書、落札者決定基準書、様式集、基本協定書（案）、基本契約書（案）、建設工事請負契約書（案）、運營業務委託契約書（案）及びその他これらに付属又は関連する書類）の公表
令和6年 4月 8日 (月) ～ 4月 19日 (金)	入札説明書等に関する質問受付（第1回）
令和6年 4月 15日 (月) ～ 4月 16日 (火)	現地見学会
令和6年 5月 10日 (金)	入札説明書等に関する質問回答（第1回）の公表
令和6年 5月 17日 (金)	参加資格審査申請書類の提出
令和6年 5月 24日 (金)	参加資格審査結果の通知
令和6年 6月 17日 (月)	対面的対話の実施
令和6年 6月 28日 (金)	対面的対話結果の公表
令和6年 7月 8日 (月) ～ 7月 12日 (金)	入札説明書等に関する質問受付（第2回）
令和6年 7月 26日 (金)	入札説明書等に関する質問回答（第2回）の公表
令和6年 8月 26日 (月)	入札提案書類の提出期限
令和6年 10月 28日 (月)	提案書に関するヒアリング、審査
令和6年 10月 28日 (月)	開札
令和6年 10月 30日 (水)	落札者の決定
令和6年 10月 31日 (木)	審査結果通知の送付 落札者決定の公表

3 選定委員会の設置

審査は、公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学識経験者を含む 5 名の委員により構成される朝霞和光資源循環組合ごみ広域処理施設整備運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）において行った。

[選定委員会の構成]

委員 長	荒井 喜久雄	元公益社団法人全国都市清掃会議 技術顧問
副委員 長	酒井 辰夫	埼玉県環境科学国際センター センター長
委員	宮脇 健太郎	明星大学理工学部総合理工学科 教授
委員	喜古 隆広	和光市 市民環境部長 (令和 4 年 11 月 14 日～令和 6 年 3 月 31 日)
委員	清水 豊	朝霞市 市民環境部長 (令和 4 年 11 月 14 日～令和 6 年 3 月 31 日)
委員	加山 卓司	和光市 市民環境部長 (令和 6 年 4 月 1 日～)
委員	紺清 公介	朝霞市 市民環境部長 (令和 6 年 4 月 1 日～)

4 選定委員会の開催経過

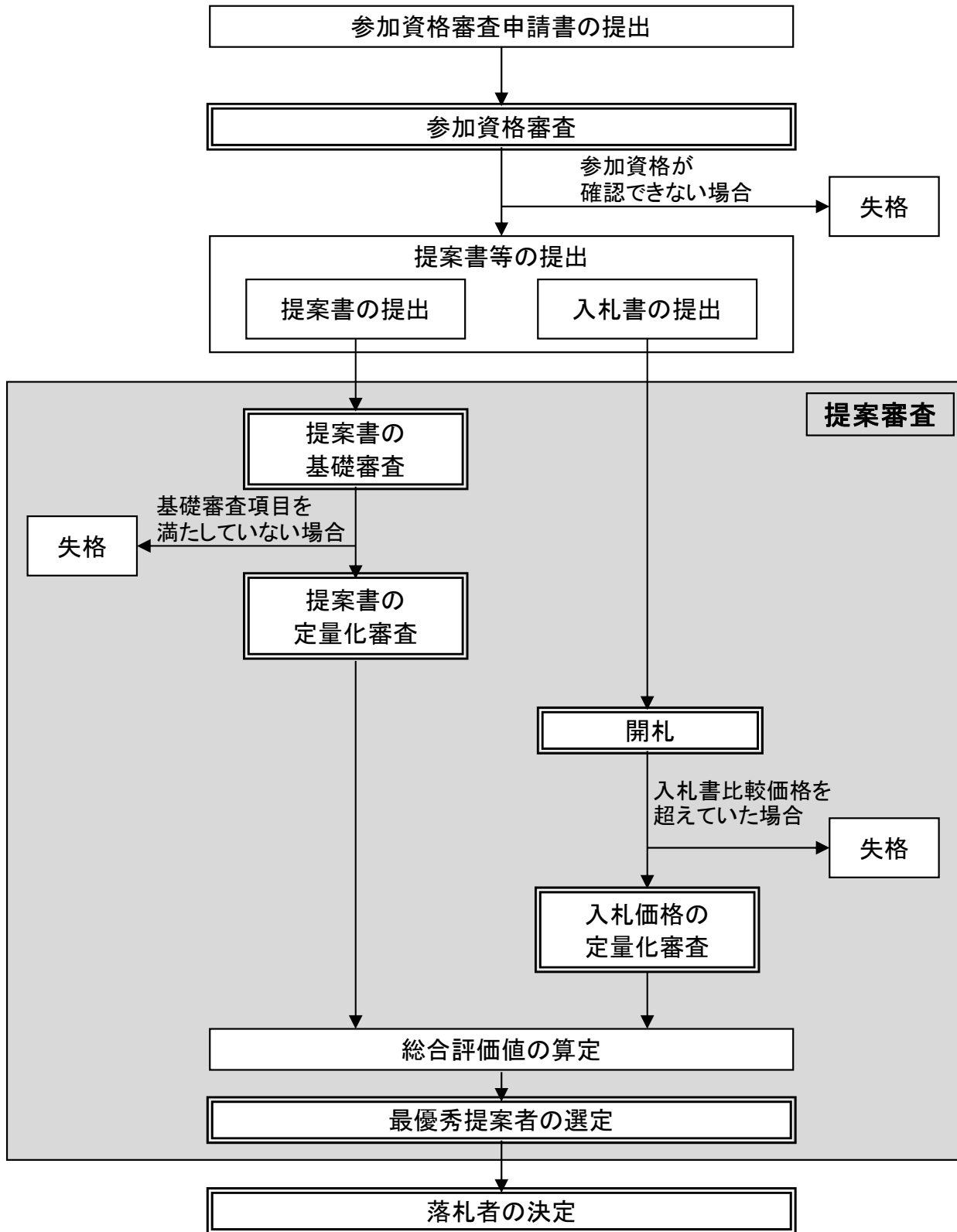
本事業における選定委員会の開催経過は、以下のとおりである。

表 2 選定委員会の開催経過

日 付	内 容
令和 4 年 11 月 14 日 (月)	第 1 回選定委員会 (事業者の選定方法、事業者選定及び委員会スケジュールについて、実施方針 (案) に関する審議)
令和 5 年 1 月 20 日 (金)	第 2 回選定委員会 (実施方針の公表についての報告、入札説明書 (案)、要求水準書 (案)、落札者決定基準 (案) に関する審議)
令和 5 年 2 月 13 日 (月)	第 3 回選定委員会 (実施方針に関する質問への回答、特定事業の選定 (案) についての報告、入札説明書 (案)、要求水準書 (案)、落札者決定基準 (案) 及び様式集 (案)、事業契約書 (案) に関する審議)
令和 6 年 2 月 16 日 (金)	第 4 回選定委員会 (実施方針 (再公告版) に関する質問への回答についての報告、入札説明書 (案)、要求水準書 (案)、落札者決定基準 (案) 及び様式集 (案)、事業契約書 (案) に関する審議)
令和 6 年 6 月 17 日 (月)	第 5 回選定委員会 (入札説明書等に関する質問回答 (第 1 回)、参加資格審査、今後の事業者選定等についての報告)
令和 6 年 10 月 1 日 (火)	第 6 回選定委員会 (提案書の基礎審査、審査講評 (案) に関する審議、提案書・ヒアリング確認事項に関する意見交換)
令和 6 年 10 月 28 日 (月)	第 7 回選定委員会 (提案書に関するヒアリング、提案書の定量化審査、入札価格の定量化審査、最優秀提案者の選定、答申書 (案) 及び審査講評 (案) に関する審議)

5 落札者決定の手順

落札者決定の手順は、以下のとおりである。



※委員会の事務は図中網掛け部分（開札は除く）

図 1 落札者決定の手順

6 選定の手順

(1) 参加資格審査

組合は、提出された参加資格審査申請書により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件（以下「参加資格要件」という。）を満たしていることを確認する。なお、参加資格要件を満たしていることが確認できない場合は失格とする。

(2) 提案審査

ア 提案書の基礎審査

(ア) 提案書等の確認

提出された提案書等がすべて揃っていることを確認する。

(イ) 提案書の基礎審査

提案書に記載された内容が、次に掲げる基礎審査項目を満たしていることを確認する。

(a) 提案書の内容が要求水準書に示す要求水準を満たしていること。

(b) 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件について遵守していること。

(c) 提案書全体について、同一事項に対する 2 通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

イ 提案書の定量化審査

(ア) 提案書における審査項目及び配点

選定委員会が設定した審査項目及び配点は 7 頁の表 3 のとおりである。

表 3 審査項目及び配点

大項目	審査項目			配点
	中項目	No.	小項目	
1 事業提案に関する事項				60点
	(1) 経済性・効率性を確保した施設	1	搬入・搬出管理の効率性	4点
		2	効率的な屋内配置動線	3点
		3	売電電力量の最大化	4点
		4	経営計画及び事業収支計画	2点
	(2) 安心かつ安全で安定性に優れ、長期稼働できる施設	5	基本性能の維持及びメンテナンス	4点
		6	処理システムの安定稼働	5点
		7	運営体制及び人員配置	5点
		8	リスク管理及び対処方法	3点
	(3) 環境負荷が少なく、循環型社会の形成を推進する施設	9	公害防止基準満足のための取組み	3点
		10	循環型社会形成の推進	3点
		11	脱炭素社会に向けた貢献	2点
	(4) 地域社会に貢献できる施設	12	親しみのあるデザイン及び景観	4点
		13	使いやすい屋外配置動線	4点
		14	見学者対応及び環境学習計画	4点
		15	地域との信頼関係の構築	3点
	(5) 災害に対して強靭性を有する施設	16	防災機能を有する施設	4点
		17	災害・トラブルへの対応力	3点
2 入札価格に関する事項				40点
(1) 入札価格				40点

(イ) 事業提案に関する得点化方法

(a) 提案を求めている審査項目においては、次の表4のとおり、5段階評価による得点化方法により得点を付与する。各審査項目の評価点については、次の算定式①により、各委員が個別に行った評価の平均値とする。

表 4 審査基準及び得点化方法

評価	審査基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	優れているとは認められない／要求水準を満たす程度	配点×0.00

算定式①【事業提案の得点算定式】

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{事業提案に関する得点} \end{array} \right) = \frac{\Sigma (\text{各審査項目の配点} \times \text{審査基準})}{\text{委員人数(5名)}}$$

ウ 入札価格の定量化審査

(ア) 入札価格に関する得点化方法

入札価格について、次の算定式②により得点を付与する。

算定式②【入札価格の得点算定式】

○最低入札価格 > 定量化限度額 の場合

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格に対する得点} \end{array} \right) = 40点 \times \left(\frac{\text{最低入札価格}}{\text{入札価格}} \right)$$

○最低入札価格 ≤ 定量化限度額 の場合

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格に対する得点} \end{array} \right) = 40点 \times \left(\frac{\text{定量化限度額}}{\text{入札価格}} \right)$$

※入札価格が定量化限度額以下の場合、当該参加者得点は40点満点とする。

エ 総合評価値の算定方法

「イ 提案書の定量化審査」、「ウ 入札価格の定量化審査」により算出した各入札参加者の得点から、次の算定式③により、各入札参加者の総合評価値を算出する。

算定式③【総合評価値の算定式】

$$\left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価値} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{事業提案に関する得点} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{l} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格に関する得点} \end{array} \right)$$

第3章 最優秀提案選定結果

1 参加資格審査

令和6年4月8日に再公告を行い、令和6年5月17日に参加表明書及び参加資格確認申請書類を受け付けたところ、以下の1グループから申請があった。

組合は、入札参加資格の確認審査を行い、令和6年5月24日に代表企業に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知した。

表5 参加表明書及び参加資格審査申請書等提出グループ

受付グループ名	空グループ
グループ名	カナデビアグループ
代表企業	カナデビア株式会社 東京本社
構成員	カナデビア環境サービス株式会社
協力企業	五洋建設株式会社 関東営業所 五十鈴建設株式会社 中央産業株式会社 株式会社ウィズウェイストジャパン

なお、選定委員会による審査にあたっては、審査の公平性を期すため、提案書等すべての書類においてグループの企業名は伏せ、表5の受付グループ名で識別して審査を行った。

2 提案審査

(1) 提案書等の確認

令和6年8月26日に入札参加資格を有する1グループより入札提案書類が提出された。
組合は、各入札参加者から提出された入札提案書類がすべて揃っていることを確認した。

(2) 基礎審査

組合は、基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。

入札提案書類を提出した1グループは、いずれも基礎審査項目を満たしていることが確認されたため、選定委員会において基礎審査に合格しているものと認められた。

(3) 提案書の定量化審査

選定委員会は令和6年10月28日に提案書の定量化審査を行った。

審査に際しては、提案書に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し、定量化審査の審査項目について、適確な提案がなされているかの審査を行い、得点化を行った。

なお、評価は、組合の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式である。

審査結果を表6、事業提案に関する事項の講評を表7に示す。

表 6 提案書の定量化審査結果

審査項目					
大項目	中項目	No.	小項目	配点	空 グループ
	事業提案に関する事項	-		60	40.65
	(1) 経済性・効率性を確保した施設	1	搬入・搬出管理の効率性	4	2.60
		2	効率的な屋内配置動線	3	1.95
		3	売電電力量の最大化	4	2.80
		4	経営計画及び事業収支計画	2	1.30
	(2) 安心かつ安全で安定性に優れ、長期稼働できる施設	5	基本性能の維持及びメンテナンス	4	3.00
		6	処理システムの安定稼働	5	3.75
		7	運営体制及び人員配置	5	3.00
		8	リスク管理及び対処方法	3	1.80
	(3) 環境負荷が少なく、循環型社会の形成を推進する施設	9	公害防止基準満足のための取組み	3	2.25
		10	循環型社会形成の推進	3	1.95
		11	脱炭素社会に向けた貢献	2	1.10
	(4) 地域社会に貢献できる施設	12	親しみのあるデザイン及び景観	4	3.00
		13	使いやすい屋外配置動線	4	3.00
		14	見学者対応及び環境学習計画	4	2.40
		15	地域との信頼関係の構築	3	1.80
	(5) 災害に対して強靱性を有する施設	16	防災機能を有する施設	4	3.00
		17	災害・トラブルへの対応力	3	1.95

表 7 事業提案に関する事項の講評

大項目	中項目	小項目	審査講評
事業提案に関する事項			
(1) 経済性・効率性を確保した施設		搬入・搬出管理の効率性	<ul style="list-style-type: none"> 適切なゾーニングにより、効率よく搬入・搬出管理を行うための工夫がなされている。 地域住民が混雑状況を把握できる仕組みが提案されている。
		効率的な屋内配置動線	<ul style="list-style-type: none"> 明確な動線計画が提案されている。 安全性や効率性に配慮したレイアウトが提案されている。
		売電電力量の最大化	<ul style="list-style-type: none"> 独自技術を活用し、消費電力の低減・年間売電電力量最大化の工夫がなされている。
		経営計画及び事業収支計画	<ul style="list-style-type: none"> 代表企業によるSPCのサポートについて提案されている。
(2) 安心かつ安全で安定性に優れ、長期稼働できる施設		基本性能の維持及びメンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用したメンテナンス技術が提案され、点検、補修、更新について詳細な計画が立てられている。 長寿命化を考慮した素材選定がなされている。
		処理システムの安定稼働	<ul style="list-style-type: none"> 高性能ストロカ炉が提案されるとともに混入防止対策が適切になされている。 火災予防のための必要な措置が提案されている。
		運営体制及び人員配置	<ul style="list-style-type: none"> 適切な人員配置計画や技術者養成プログラムが提案されている。
		リスク管理及び対処方法	<ul style="list-style-type: none"> 想定リスクに対して具体的な予防策と対応策が提案されている。 セルフモニタリング及び第三者機関の活用を考え方を詳細に提案されている。
(3) 環境負荷が少なく、循環型社会の形成を推進する施設		公害防止基準満足のための取組み	<ul style="list-style-type: none"> 独自技術により排ガス公害防止基準遵守に取り組む工夫がなされている。
		循環型社会形成の推進	<ul style="list-style-type: none"> 焼却残渣や飛灰発生量の削減、不燃残渣の資源化等、環境負荷軽減に努めた計画がなされている。
		脱炭素社会に向けた貢献	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー機器の導入、使用電力量削減等、可能な範囲で脱炭素社会に向けた貢献への工夫がなされている。
(4) 地域社会に貢献できる施設		親しみのあるデザイン及び景観	<ul style="list-style-type: none"> 市民の憩いの空間となる開放的なデザインで、展望台の設置等の工夫がなされている。 利用者の安全面に考慮した計画がなされている。
		使いやすい屋外配置動線	<ul style="list-style-type: none"> 明確な車両動線が提案されている。 混雑時の敷地活用や待車計画について適切な計画がなされている。
		見学者対応及び環境学習計画	<ul style="list-style-type: none"> 見学しやすい窓高さの設定や展示内容の更新のしやすい構成とする工夫がなされている。
		地域との信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業の技術力向上が期待される。
(5) 災害に対して強靭性を有する施設		防災機能を有する施設	<ul style="list-style-type: none"> 浸水対策を行い、被害を最小限に抑える提案がされている。また、被災後のBCPや代表企業ネットワークによるサポートが計画されている。 防災備品の保管による避難所機能を確保した提案がされている。
		災害・トラブルへの対応力	<ul style="list-style-type: none"> SPCによる広域支援や災害廃棄物処理の支援等について、具体的な提案がされている。

(4) 入札価格の定量化審査

提案書の定量化審査終了後、組合は、入札参加者の立会いのもとで令和6年10月28日に開札を行い、入札参加者の入札金額が予定価格の範囲内であることを確認した。

選定委員会は、開札結果の報告を受け、入札価格の定量化審査として入札金額の得点化を行った。得点化の結果は、表8のとおりである。

表 8 入札価格の定量化審査結果

受付グループ名	配点	入札価格（税抜）	入札価格に関する得点
空グループ	40	44,990,000,000 円	40.00 点

(5) 総合評価値の算出

「事業提案に関する得点」、「入札価格に関する得点」を加算して、表9のとおり総合評価値を算出した。

表 9 総合評価値の算出結果

受付グループ名	事業提案に関する得点 (A)	入札価格に関する得点 (B)	入札価格に関する得点 (B)		総合評価値 (A) + (B)
			入札価格（税抜）	対入札書比較価格	
空グループ	40.65 点	40.00 点	44,990,000,000 円	100.0%	80.65 点

(6) 最優秀提案者の選定

選定委員会は、上記の結果に基づき最優秀提案者を以下のとおり選定した。

表 10 最優秀提案者

受付グループ名	空グループ
グループ名	カナデビアグループ
代表企業	カナデビア株式会社 東京本社
構成員	カナデビア環境サービス株式会社
協力企業	五洋建設株式会社 関東営業所 五十鈴建設株式会社 中央産業株式会社 株式会社ウィズウェイストジャパン

第4章 総評

組合は、構成市において将来にわたる安定的かつ効率的なごみ広域処理体制の構築を推進していくことを目的として、本事業で新たなエネルギー回収型廃棄物処理施設（ごみ焼却施設）及びマテリアルリサイクル推進施設（不燃・粗大ごみ処理施設）を含む「朝霞和光資源循環組合ごみ広域処理施設」の整備を進めている。

本事業は、本施設の設計・建設及び運営・維持管理について、一括して発注する DBO (Design-Build-Operate) 方式を採用し、事業者の経営能力、技術力及び運営能力等を活用することにより、本施設の効率的かつ効果的な設計・建設及び運営・維持管理を行い、将来にわたり安全で安定したごみの適正処理、循環型社会を構築するためのエネルギー回収及び資源回収を進めることを目的としている。

このような背景を踏まえ、当選定委員会では、総合評価一般競争入札により組合が落札者を選定するにあたり、透明性、公平性に最大限配慮した審査基準及び方法等を定め、審査を実施した。

今回の入札参加者の提案は、本事業の目的を的確に捉え、組合が要求する水準を上回るものであった。また、提案内容が多岐にわたることから、提案書の作成において多大な労力及び費用負担があったことが想定される。ここで、提案書を作成した入札参加者に対し、敬意を表するとともに、深く感謝する。

審査においては、提案書及び入札価格に対する厳正な審査の結果、カナデビア株式会社東京本社を代表企業とするカナデビアグループを最優秀提案者として選定するに至った。提案については、「処理システムの安定稼働」、「使いやすい屋外配置動線」、「防災機能を有する施設」などが特に高く評価された。

当選定委員会は、カナデビアグループに対し、提案内容の確実な履行を求めるところであるが、以下に示す配慮・要望事項にも留意され、より一層の事業の充実を図ることを期待する。

- ① カナデビア株式会社東京本社は、代表企業として、本事業の円滑な推進のため、建設期間及び運営期間のそれぞれにおいて十分なマネジメントを行うとともに、リーダーシップを発揮し、建築物の設計施工に対しても主体的に協力企業を統括すること。
- ② 20年間にわたり継続する事業として、地域に開かれた親しみのある施設となるよう、オープンスペースや施設等の活用方法について十分検討するとともに、利用者の安全性や利便性に十分に配慮すること。
- ③ 社会環境の変化に対応した公共サービス提供のため、組合や構成市の方針を十分に理解し、ごみ処理手数料支払いのキャッシュレス化等への対応に取り組むこと。
- ④ 地域における環境啓発を推進するための施設としてその役割を十分に果たせるよう、再生可能エネルギーのより積極的な活用についても十分検討すること。
- ⑤ 地元への貢献及び地元企業の技術向上や育成に資する事業とするため、設計・建設業務及び運営業務に対してより積極的に地元企業を活用すること。

カナデビアグループには、上記の配慮・要望事項について、組合と十分な協議を行い、入札及び契約の公平性を妨げない範囲において真摯な対応に努め、今後の事業期間にわたり質の高い公共サービスを提供することを期待する。

最後に、組合とカナデビアグループが、本事業の良きパートナーとして、地域との信頼関係を築き、本事業を適正かつ適切に推進することを望む。

朝霞和光資源循環組合ごみ広域処理施設整備運営事業者選定委員会
委員長 荒井 喜久雄